



# ソフトウェアおよびコンフィギュレーション

この章では、ASA ソフトウェアおよびコンフィギュレーションの管理方法について説明します。

- ソフトウェアのアップグレード (1 ページ)
- ROMMON を使用したイメージのロード (ASA 5506-X、5508-X、5516-X、および ISA 3000) (1 ページ)
- ROMMON イメージのアップグレード (ASA 5506-X、5508-X、5516-X、および ISA 3000) (3 ページ)
- ASA 5506W-X ワイヤレス アクセス ポイントのイメージの回復およびロード (5 ページ)
- ソフトウェアのダウングレード (5 ページ)
- ファイルの管理 (12 ページ)
- ASA イメージ、ASDM、およびスタートアップ コンフィギュレーションの設定 (22 ページ)
- コンフィギュレーションまたはその他のファイルのバックアップと復元 (26 ページ)
- Auto Update の設定 (44 ページ)
- ソフトウェアとコンフィギュレーションの履歴 (53 ページ)

## ソフトウェアのアップグレード

完全なアップグレードの手順については、『[Cisco ASA Upgrade Guide](#)』を参照してください。

## ROMMON を使用したイメージのロード (ASA 5506-X、5508-X、5516-X、および ISA 3000)

TFTP を使用して ROMMON モードから ASA へソフトウェア イメージをロードするには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ1** ASA ハードウェアまたは ISA 3000 コンソールへのアクセスに従って、ASA のコンソールポートに接続します。
- ステップ2** ASA の電源を切ってから、再び電源をオンにします。
- ステップ3** スタートアップの間に、ROMMON モードに入るようにプロンプト表示されたら、**Escape** キーを押します。
- ステップ4** ROMMON モードで、IP アドレス、TFTP サーバアドレス、ゲートウェイアドレス、ソフトウェアイメージファイル、およびポートを含む、ASA に対するインターフェイス設定を次のように定義します。

```
rommon #1> interface gigabitethernet0/0
rommon #2> address 10.86.118.4
rommon #3> server 10.86.118.21
rommon #4> gateway 10.86.118.21
rommon #5> file asa961-smp-k8.bin
```

(注) ネットワークへの接続がすでに存在することを確認してください。

インターフェイス コマンドは ASA 5506-X、ASA 5508-X、および ASA 5516-X プラットフォームで無視されるため、これらのプラットフォームで Management 1/1 インターフェイスから TFTP リカバリを実行する必要があります。

- ステップ5** 設定を検証します。

```
rommon #6> set
ROMMON Variable Settings:
ADDRESS=10.86.118.3
SERVER=10.86.118.21
GATEWAY=10.86.118.21
PORT=GigabitEthernet0/0
VLAN=untagged
IMAGE=asa961-smp-k8.bin
CONFIG=
LINKTIMEOUT=20
PKTTIMEOUT=4
RETRY=20
```

- ステップ6** TFTP サーバーに ping を送信します。

```
rommon #7> ping server
Sending 20, 100-byte ICMP Echoes to server 10.86.118.21, timeout is 4 seconds:

Success rate is 100 percent (20/20)
```

- ステップ7** ネットワーク設定を、後で使用できるように保管しておきます。

```
rommon #8> sync
Updating NVRAM Parameters...
```

**ステップ 8** システム ソフトウェア イメージをロードします。

```
rommon #9> tftpdnld
ROMMON Variable Settings:
  ADDRESS=10.86.118.3
  SERVER=10.86.118.21
  GATEWAY=10.86.118.21
  PORT=GigabitEthernet0/0
  VLAN=untagged
  IMAGE=asa961-smp-k8.bin
  CONFIG=
  LINKTIMEOUT=20
  PKTTIMEOUT=4
  RETRY=20

tftp asa961-smp-k8.bin@10.86.118.21 via 10.86.118.21

Received 14450688 bytes

Launching TFTP Image...
Cisco ASA Security Appliance admin loader (3.0) #0: Mon Mar 5 16:00:07 MST 2016

Loading...
```

ソフトウェア イメージが正常にロードされると、ASA は自動的に ROMMON モードを終了します。

**ステップ 9** ROMMON モードから ASA を起動する場合、システム イメージはリロード間で保持されないため、やはりイメージをフラッシュメモリにダウンロードする必要があります。 [ソフトウェアのアップグレード \(1 ページ\)](#) を参照してください。

## ROMMON イメージのアップグレード (ASA 5506-X、5508-X、5516-X、および ISA 3000)

ASA 5506-X シリーズ、ASA 5508-X、ASA 5516-X、および ISA 3000 の ROMMON イメージをアップグレードするには、次の手順に従います。ASA モデルの場合、システムの ROMMON バージョンは 1.1.8 以上である必要があります。最新バージョンへのアップグレードを推奨します。

新バージョンへのアップグレードのみ可能です。ダウングレードはできません。



**注意** ASA 5506-X、5508-X、5516-X の ROMMON 1.1.15 へのアップグレード、および ISA 3000 の ROMMON 1.0.5 へのアップグレードには、以前の ROMMON バージョンの 2 倍の時間がかかります (約 15 分)。アップグレード中はデバイスの電源を再投入しないでください。アップグレードが 30 分以内に完了しないか、または失敗した場合は、シスコテクニカルサポートに連絡してください。デバイスの電源を再投入したり、リセットしたりしないでください。

## 始める前に

Cisco.com から新しい ROMMON イメージを取得して、サーバー上に置いて ASA にコピーします。ASA は、FTP サーバー、TFTP サーバー、SCP サーバー、HTTP (S) サーバー、および SMB サーバーをサポートしています。次の URL からイメージをダウンロードします。

- ASA 5506-X、5508-X、5516-X : <https://software.cisco.com/download/home/286283326/type>
- ISA 3000 : <https://software.cisco.com/download/home/286288493/type>

## 手順

**ステップ 1** ROMMON イメージを ASA フラッシュ メモリにコピーします。この手順では、FTP コピーを表示します。他のサーバータイプのシンタクスの場合は **copy ?** と入力します。

```
copy ftp://[username:password@]server_ip/asa5500-firmware-xxxx.SPA
disk0:asa5500-firmware-xxxx.SPA
```

**ステップ 2** 現在のバージョンを確認するには、**show module** コマンドを入力して、MAC アドレス範囲テーブルの Mod 1 の出力で Fw バージョンを調べます。

```
ciscoasa# show module
[...]
Mod  MAC Address Range                Hw Version  Fw Version  Sw Version
-----
  1  7426.aceb.ccea to 7426.aceb.ccf2  0.3         1.1.5       9.4 (1)
sfr  7426.aceb.cce9 to 7426.aceb.cce9  N/A        N/A
```

**ステップ 3** ROMMON イメージをアップグレードします。

```
upgrade rommon disk0:asa5500-firmware-xxxx.SPA
```

例 :

```
ciscoasa# upgrade rommon disk0:asa5500-firmware-1108.SPA
Verifying file integrity of disk0:/asa5500-firmware-1108.SPA

Computed Hash   SHA2: d824bdeecce1308fc64427367fa559e9
              eefe8f182491652ee4c05e6e751f7a4f
              5cdea28540cf60acde3ab9b65ff55a9f
              4e0cfb84b9e2317a856580576612f4af

Embedded Hash   SHA2: d824bdeecce1308fc64427367fa559e9
              eefe8f182491652ee4c05e6e751f7a4f
              5cdea28540cf60acde3ab9b65ff55a9f
              4e0cfb84b9e2317a856580576612f4af

Digital signature successfully validated
File Name       : disk0:/asa5500-firmware-1108.SPA
Image type      : Release
  Signer Information
    Common Name   : abraxas
    Organization Unit : NCS_Kenton_ASA
    Organization Name : CiscoSystems
    Certificate Serial Number : 553156F4
```

```
Hash Algorithm           : SHA2 512
Signature Algorithm      : 2048-bit RSA
Key Version              : A
Verification successful.
Proceed with reload? [confirm]
```

**ステップ 4** プロンプトが表示されたら、確認して ASA をリロードします。

ASA が ROMMON イメージをアップグレードして、その後オペレーティングシステムをリロードします。

---

## ASA 5506W-X ワイヤレス アクセス ポイントのイメージの回復およびロード

TFTP を使用してソフトウェア イメージを回復して ASA 5506W-X にロードするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** アクセス ポイント (AP) へのセッションを確立し、AP ROMMON (ASA ROMMON ではなく) を開始します。

```
ciscoasa# hw-module module wlan recover image
```

**ステップ 2** [Cisco Aironet アクセス ポイント Cisco IOS ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド \[英語\]](#) の手順に従います。

---

## ソフトウェアのダウングレード

多くの場合、ASA ソフトウェアをダウングレードし、以前のソフトウェアバージョンからバックアップ設定を復元することができます。ダウングレードの方法は、ASA プラットフォームによって異なります。

## ダウングレードに関するガイドラインおよび制限事項

ダウングレードする前に、次のガイドラインを参照してください。

- クラスタリング用の公式のゼロ ダウンタイム ダウングレードのサポートはありません。ただし場合によっては、ゼロ ダウンタイム ダウングレードが機能します。ダウングレー

ドに関する次の既知の問題を参照してください。この他の問題が原因でクラスタユニットのリロードが必要になることもあり、その場合はダウンタイムが発生します。

- クラスタリングを含む9.9(1)より前のリリースへのダウングレード：9.9(1)以降では、バックアップの配布が改善されています。クラスタに3つ以上のユニットがある場合は、次の手順を実行する必要があります。
  1. クラスタからすべてのセカンダリユニットを削除します（クラスタはプライマリユニットのみで構成されます）。
  2. 1つのセカンダリユニットをダウングレードし、クラスタに再参加させます。
  3. プライマリユニットでクラスタリングを無効にします。そのユニットをダウングレードし、クラスタに再参加させます。
  4. 残りのセカンダリユニットをダウングレードし、それらを一度に1つずつクラスタに再参加させます。
- クラスタサイトの冗長性を有効にする場合は、9.9(1)より前のリリースにダウングレードします。ダウングレードする場合（または9.9(1)より前のユニットをクラスタに追加する場合は、サイトの冗長性を無効にする必要があります。そうしないと、古いバージョンを実行しているユニットにダミーの転送フローなどの副作用が発生します。
- クラスタリングおよび暗号マップを使用する場合に9.8(1)からダウングレードする：暗号マップが設定されている場合に9.8(1)からダウングレードすると、ゼロダウンタイムダウングレードはサポートされません。ダウングレード前に暗号マップ設定をクリアし、ダウングレード後に設定をもう一度適用する必要があります。
- クラスタリングユニットのヘルスチェックを0.3～0.7秒に設定した状態で9.8(1)からダウングレードする：**(health-check holdtime)**でホールド時間を0.3～0.7秒に設定した後でASAソフトウェアをダウングレードすると、新しい設定はサポートされないため、設定値はデフォルトの3秒に戻ります。
- クラスタリング（CSCuv82933）を使用している場合に9.5(2)以降から9.5(1)以前にダウングレードする：9.5(2)からダウングレードする場合、ゼロダウンタイムダウングレードはサポートされません。ユニットがオンラインに戻ったときに新しいクラスタが形成されるように、すべてのユニットをほぼ同時にリロードする必要があります。ユニットが順番にリロードされるのを待つと、クラスタを形成できなくなります。
- クラスタリングを使用する場合に9.2(1)以降から9.1以前にダウングレードする：ゼロダウンタイムダウングレードはサポートされません。
- プラットフォームモードでの9.13/9.14から9.12以前へのFirepower 2100のダウングレードの問題：プラットフォームモードに変換した9.13または9.14を新規インストールしたFirepower 2100の場合：9.12以前にダウングレードすると、FXOSで新しいインターフェイスの設定や、既存のインターフェイスの編集ができなくなります（9.12以前ではプラットフォームモードのみがサポートされていたことに注意してください）。バージョンを9.13以降に戻すか、またはFXOSのerase configurationコマンドを使用して設定をクリアす

る必要があります。この問題は、元々以前のリリースから9.13または9.14にアップグレードした場合は発生しません。新しいデバイスや再イメージ化されたデバイスなど、新規インストールのみが影響を受けます。(CSCvr19755)

- スマート ライセンスの 9.10(1) からのダウングレード：スマート エージェントの変更により、ダウングレードする場合、デバイスを Cisco Smart Software Manager に再登録する必要があります。新しいスマートエージェントは暗号化されたファイルを使用するので、古いスマートエージェントが必要とする暗号化されていないファイルを使用するために再登録する必要があります。
- PBKDF2 (パスワードベースのキー派生関数2) ハッシュをパスワードで使用する場合に 9.5 以前のバージョンにダウングレードする：9.6 より前のバージョンは PBKDF2 ハッシュをサポートしていません。9.6(1) では、32 文字より長い **enable** パスワードおよび **username** パスワードで PBKDF2 ハッシュを使用します。9.7(1) では、すべての新しいパスワードは、長さに関わらず PBKDF2 ハッシュを使用します (既存のパスワードは引き続き MD5 ハッシュを使用します)。ダウングレードすると、**enable** パスワードがデフォルト (空白) に戻ります。ユーザー名は正しく解析されず、**username** コマンドが削除されます。ローカル ユーザーをもう一度作成する必要があります。
- ASAv 用のバージョン 9.5(2.200) からのダウングレード：ASAv はライセンス登録状態を保持しません。**license smart register idtoken id\_token force** コマンドで再登録する必要があります (ASDM の場合、[Configuration]>[Device Management]>[Licensing]>[Smart Licensing] ページで [Force registration] オプションを使用)。Smart Software Manager から ID トークンを取得します。
- 元のトンネルがネゴシエートした暗号スイートをサポートしないソフトウェアバージョンをスタンバイ装置が実行している場合でも、VPN トンネルがスタンバイ装置に複製されません。このシナリオは、ダウングレード時に発生します。その場合、VPN 接続を切断して再接続してください。

## ダウングレード後に削除される互換性のない設定

以前のバージョンにダウングレードすると、それ以降のバージョンで導入されたコマンドは設定から削除されます。ダウングレードする前に、ターゲットバージョンに対して設定を自動的にチェックする方法はありません。新しいコマンドが [ASA の新しい機能](#) にいつ追加されたかをリリースごとに表示できます。

**show startup-config errors** コマンドを使用してダウングレードした後、拒否されたコマンドを表示できます。ラボデバイスでダウングレードを実行できる場合は、実稼働デバイスでダウングレードを実行する前にこのコマンドを使用して効果を事前に確認できます。

場合によっては、ASA はアップグレード時にコマンドを新しいフォームに自動的に移行するため、バージョンによっては新しいコマンドを手動で設定しなかった場合でも、設定の移行によってダウングレードが影響を受けることがあります。ダウングレード時に使用できる古い設定のバックアップを保持することを推奨します。8.3 へのアップグレード時には、バックアップが自動的に作成されます (<old\_version>\_startup\_cfg.sav)。他の移行ではバックアップが作成されません。ダウングレードに影響する可能性がある自動コマンド移行の詳細については、

『ASAアップグレードガイド』の「バージョン固有のガイドラインと移行」を参照してください。

[ダウングレードに関するガイドラインおよび制限事項（5 ページ）](#)の既知のダウングレードの問題も参照してください。

たとえば、バージョン9.8(2)を実行しているASAには、次のコマンドが含まれています。

```
access-list acl1 extended permit sctp 192.0.2.0 255.255.255.0 198.51.100.0 255.255.255.0
username test1 password $sha512$1234$abcdefghijklmnopqrstuvwxy privilege 15
snmp-server user snmpuser1 snmpgroup1 v3 engineID abcdefghijklmnopqrstuvwxyz encrypted
auth md5 12:ab:34 priv aes 128 12:ab:34
```

9.0(4)にダウングレードすると、起動時に次のエラーが表示されます。

```
access-list acl1 extended permit sctp 192.0.2.0 255.255.255.0 198.51.100.0 255.255.255.0
                                     ^
ERROR: % Invalid input detected at '^' marker.

username test1 password $sha512$1234$abcdefghijklmnopqrstuvwxy pbkdf2 privilege 15
                                     ^
ERROR: % Invalid input detected at '^' marker.

snmp-server user snmpuser1 snmpgroup1 v3 engineID abcdefghijklmnopqrstuvwxyz encrypted
auth md5 12:ab:34 priv aes 128 12:ab:34
                                     ^
ERROR: % Invalid input detected at '^' marker.
```

この例では、**access-list extended** コマンドでの **sctp** のサポートがバージョン9.5(2)で、**username** コマンドでの **pbkdf2** のサポートがバージョン9.6(1)で、**snmp-server user** コマンドでの **engineID** のサポートがバージョン9.5(3)で追加されました。

## Firepower 1000、2100（アプライアンスモード）のダウングレード

ASA のバージョンを古いバージョンに設定し、バックアップ設定をスタートアップ コンフィギュレーションに復元してからリロードすることによって、ASA ソフトウェアのバージョンをダウングレードすることができます。

### 始める前に

この手順ではアップグレードする前に ASA のバックアップ設定を行う必要があるため、古い設定を復元することができます。古い設定を復元しない場合は、新規または変更された機能を表す互換性のないコマンドが存在する可能性があります。新しいコマンドは、ソフトウェアの古いバージョンをロードすると拒否されます。

### 手順

- 
- ステップ 1** スタンドアロン、フェールオーバー、またはクラスタリング展開のために、[『ASA Upgrade Guide』](#)のアップグレード手順を使用して、ASA ソフトウェアの古いバージョンをロードしま



す。この場合は、ASA の新しいバージョンではなく、古いバージョンを指定します。**重要**：まだ ASA をリロードしないでください。

**ステップ 2** ASA CLI で、バックアップの ASA 設定をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。フェールオーバーの場合は、アクティブユニットでこの手順を実行します。この手順では、コマンドをスタンバイ装置に複製します。

**copy old\_config\_url startup-config**

**write memory** を使用して実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存しないことが重要です。このコマンドは、バックアップ設定を上書きします。

例：

```
ciscoasa# copy disk0:/9.13.1_cfg.sav startup-config
```

**ステップ 3** ASA をリロードします。

**ASA CLI**

**reload**

**ASDM**

[Tools] > [System Reload] を選択します。

---

## プラットフォームモードでの Firepower 2100 のダウングレード

バックアップ設定をスタートアップ コンフィギュレーションに復元し、ASA のバージョンを古いバージョンに設定してからリロードすることによって、ASA ソフトウェアのバージョンをダウングレードすることができます。

始める前に

この手順ではアップグレードする前に ASA のバックアップ設定を行う必要があるため、古い設定を復元することができます。古い設定を復元しない場合は、新規または変更された機能を表す互換性のないコマンドが存在する可能性があります。新しいコマンドは、ソフトウェアの古いバージョンをロードすると拒否されます。

手順

---

**ステップ 1** ASA CLI で、バックアップの ASA 設定をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。フェールオーバーの場合は、アクティブユニットでこの手順を実行します。この手順では、コマンドをスタンバイ装置に複製します。

**copy old\_config\_url startup-config**

**write memory** を使用して実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存しないことが重要です。このコマンドは、バックアップ設定を上書きします。

例：

```
ciscoasa# copy disk0:/9.12.4_cfg.sav startup-config
```

**ステップ2** FXOS では、スタンドアロン、フェールオーバー、あるいはクラスタリング展開のために、Firepower Chassis Manager または FXOS CLI を使用し、『ASA Upgrade Guide』のアップグレード手順に従って ASA ソフトウェアの古いバージョンを使います。この場合は、ASA の新しいバージョンではなく、古いバージョンを指定します。

## Firepower 4100/9300 のダウングレード

バックアップ設定をスタートアップ コンフィギュレーションに復元し、ASA のバージョンを古いバージョンに設定してからリロードすることによって、ASA ソフトウェアのバージョンをダウングレードすることができます。

始める前に

- この手順ではアップグレードする前に ASA のバックアップ設定を行う必要があるため、古い設定を復元することができます。古い設定を復元しない場合は、新規または変更された機能を表す互換性のないコマンドが存在する可能性があります。新しいコマンドは、ソフトウェアの古いバージョンをロードすると拒否されます。
- ASA の古いバージョンが、FXOS の現在のバージョンと互換性があることを確認します。互換性がない場合は、古い ASA 設定を復元する前に最初の手順として FXOS をダウングレードします。ダウングレードされた FXOS も、（ダウングレードする前に）ASA の現在のバージョンと互換性があることを確認してください。互換性を実現できない場合は、ダウングレードを実行しないことをお勧めします。

手順

**ステップ1** ASA CLI で、バックアップの ASA 設定をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。フェールオーバーまたはクラスタリングの場合は、アクティブ/制御ユニットでこの手順を実行します。この手順では、コマンドをスタンバイ/データユニットに複製します。

**copy old\_config\_url startup-config**

**write memory** を使用して実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存しないことが重要です。このコマンドは、バックアップ設定を上書きします。

例：

```
ciscoasa# copy disk0:/9.8.4_cfg.sav startup-config
```

**ステップ2** FXOS では、スタンドアロン、フェールオーバー、あるいはクラスタリング展開のために、Firepower Chassis Manager または FXOS CLI を使用し、『ASA Upgrade Guide』のアップグレー

ド手順に従って ASA ソフトウェアの古いバージョンを使います。この場合は、ASA の新しいバージョンではなく、古いバージョンを指定します。

- ステップ 3** また、FXOS をダウングレードする場合は、スタンドアロン、フェールオーバー、あるいはクラスタリング展開のために、Firepower Chassis Manager または FXOS CLI を使用し、『[ASA Upgrade Guide](#)』のアップグレード手順に従って FXOS ソフトウェアの古いバージョンを最新のバージョンに設定します。

## ASA 5500-X または ISA 3000 のダウングレード

ダウングレードでは、ASA 5500-X および ISA 3000 モデルで以下の機能を完了するためのショートカットが存在します。

- ブート イメージ コンフィギュレーションのクリア (**clear configure boot**) 。
- 古いイメージへのブート イメージの設定 (**boot system**) 。
- (オプション) 新たなアクティベーション キーの入力 (**activation-key**) 。
- 実行コンフィギュレーションのスタートアップへの保存 (**write memory**) 。これにより、BOOT 環境変数を古いイメージに設定します。このため、リロードすると古いイメージがロードされます。
- 古いコンフィギュレーションのバックアップをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします (**copy old\_config\_url startup-config**) 。
- リロード (**reload**) 。

### 始める前に

- この手順ではアップグレードする前に ASA のバックアップ設定を行う必要があるため、古い設定を復元することができます。
- ASA FirePOWER モジュールのバージョンがインストールされている場合は、ASA の古いバージョンと互換性があることを確認します。FirePOWER モジュールを以前のメジャーバージョンにダウングレードすることはできません。

### 手順

ソフトウェアをダウングレードし、古いコンフィギュレーションを復元します。

**downgrade** [**/noconfirm**] *old\_image\_url old\_config\_url* [**activation-key old\_key**]

例 :

```
ciscoasa(config)# downgrade /noconfirm disk0:/asa821-k8.bin disk0:/8_2_1_0_startup_cfg.sav
```

**/noconfirm** オプションを指定すると、プロンプトが表示されずにダウングレードされます。  
*image\_url* は、*disk0*、*disk1*、*tftp*、*ftp*、または *smb* 上の古いイメージへのパスです。*old\_config\_url* は、保存された移行前の設定へのパスです。8.3 よりも前のアクティベーション キーに戻る必要がある場合は、そのアクティベーション キーを入力できます。

## ファイルの管理

### フラッシュ メモリ内のファイルの表示

フラッシュ メモリ内のファイルを表示して、そのファイルに関する情報を参照できます。

#### 手順

**ステップ 1** フラッシュ メモリ内のファイルを表示します。

**dir [disk0: | disk1:]**

例 :

```
hostname# dir

Directory of disk0:/
500  -rw-  4958208    22:56:20 Nov 29 2004  cdisk.bin
2513 -rw-   4634      19:32:48 Sep 17 2004  first-backup
2788 -rw-   21601    20:51:46 Nov 23 2004  backup.cfg
2927 -rw-   8670632   20:42:48 Dec 08 2004  asdmfile.bin
```

内部フラッシュ メモリの場合、**disk0:** と入力します。**disk1:** キーワードは外部フラッシュ メモリを表します。デフォルトは、内部フラッシュ メモリです。

**ステップ 2** 特定のファイルに関する追加情報を表示します。

**show file information [path:/]filename**

例 :

```
hostname# show file information cdisk.bin

disk0:/cdisk.bin:
  type is image (XXX) []
  file size is 4976640 bytes version 7.0(1)
```

示されているファイル サイズは例にすぎません。

デフォルトパスは、内部フラッシュ メモリのルート ディレクトリ (*disk0:/*) です。

## フラッシュメモリからのファイルの削除

不要になったファイルはフラッシュメモリから削除できます。

### 手順

---

フラッシュメモリからファイルを削除します。

**delete disk0: filename**

パスを指定しないと、デフォルトにより、ファイルは現在の作業ディレクトリから削除されます。ファイルを削除するときは、ワイルドカードを使用できます。削除するファイル名を求めるプロンプトが表示されます。その後、削除を確認する必要があります。

---

## フラッシュファイルシステムの削除

フラッシュファイルシステムを消去するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** ASA ハードウェアまたは ISA 3000 コンソールへのアクセスの手順に従って、ASA のコンソールポートに接続します。
  - ステップ 2** ASA の電源を切ってから、再び電源をオンにします。
  - ステップ 3** スタートアップの間に、ROMMON モードに入るようにプロンプト表示されたら、**Escape** キーを押します。
  - ステップ 4** **erase** コマンドを入力します。これにより、すべてのファイルが上書きされてファイルシステムが消去されます（非表示のシステムファイルを含む）。

```
rommon #1> erase [disk0: | disk1: | flash:]
```

---

## ファイルアクセスの設定

ASA では、FTP クライアント、セキュアコピークライアント、または TFTP クライアントを使用できます。また、ASA をセキュアコピーサーバーとして設定することもできるため、コンピュータでセキュアコピークライアントを使用できます。

### FTP クライアントモードの設定

ASA では、FTP サーバーとの間で、イメージファイルやコンフィギュレーションファイルのアップロードおよびダウンロードを実行できます。パッシブFTPでは、クライアントは制御接

続およびデータ接続の両方を開始します。パッシブモードではデータ接続の受け入れ側となるサーバーは、今回の特定の接続においてリッスンするポート番号を応答として返します。

### 手順

FTP モードをパッシブに設定します。

#### **ftp mode passive**

例：

```
ciscoasa(config)# ftp mode passive
```

## セキュア コピー サーバーとしての ASA の設定

ASA 上でセキュア コピー (SCP) サーバーをイネーブルにできます。SSH による ASA へのアクセスを許可されたクライアントだけが、セキュア コピー接続を確立できます。

### 始める前に

- サーバーにはディレクトリ サポートがありません。ディレクトリ サポートがないため、ASA の内部ファイルへのリモートクライアントアクセスは制限されます。
- サーバーでは、バナーまたはワイルドカードがサポートされていません。
- [SSH アクセスの設定](#) に従って、ASA で SSH を有効にします。
- SSH バージョン 2 接続をサポートするには、ASA のライセンスに強力な暗号化 (3DES/AES) ライセンスが必要です。
- 特に指定されていないかぎり、マルチ コンテキスト モードでは、システム実行スペースで次の手順を実行します。コンテキストからシステム実行スペースに切り替えるには、**changeto system** コマンドを入力します。
- セキュア コピーのパフォーマンスは、使用する暗号化アルゴリズムにある程度依存します。デフォルトで、ASA は 3des-cbc aes128-cbc aes192-cbc aes256-cbc aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr の順にアルゴリズムをネゴシエートします。提示された最初のアルゴリズム (3des-cbc) が選択された場合、aes128-cbc などの一層効率的なアルゴリズムが選択された場合よりも大幅にパフォーマンスが低下します。提示された暗号方式を変更するには、**ssh cipher encryption** コマンド。たとえば、**ssh cipher encryption custom aes128-cbc**

### 手順

**ステップ 1** SCP サーバーをイネーブルにします。

#### **ssh scopy enable**

**ステップ2** (オプション) ASA データベースから手動でサーバーとそのキーを追加または削除します。

```
ssh pubkey-chain [no] server ip_address {key-string key_string exit| key-hash {md5 | sha256} fingerprint}
```

例 :

```
ciscoasa(config)# ssh pubkey-chain
ciscoasa(config-ssh-pubkey-chain)# server 10.7.8.9
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server)# key-string
Enter the base 64 encoded RSA public key.
End with the word "exit" on a line by itself
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server-string)# c1:b1:30:29:d7:b8:de:6c:97:77:10:d7:46:41:63:87
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server-string)# exit
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server)# show running-config ssh pubkey-chain
ssh pubkey-chain
  server 10.7.8.9
    key-hash sha256 f1:22:49:47:b6:76:74:b2:db:26:fb:13:65:d8:99:19:
e7:9e:24:46:59:be:13:7f:25:27:70:9b:0e:d2:86:12
```

ASA は接続先の各 SCP サーバーの SSH ホストキーを保存します。必要に応じて、手動でキーを管理できます。

各サーバーについて、SSH ホストの **key-string** (公開キー) または **key-hash** (ハッシュ値) を指定できます。

*key\_string* はリモートピアの Base64 で符号化された RSA 公開キーです。オープン SSH クライアントから (言い換えると `.ssh/id_rsa.pub` ファイルから) 公開キー値を取得できます。Base64 で符号化された公開キーを送信した後、SHA-256 によってそのキーがハッシュされます。

**key-hash {md5 | sha256} fingerprint** では、たとえば、**show** コマンドの出力からコピーしたキーなどの、すでにハッシュされているキー (MD5 または SHA-256 キーを使用) が入力されます。

**ステップ3** (任意) SSH ホストキー チェックを有効または無効にします。マルチ コンテキスト モードでは、管理コンテキストでこのコマンドを入力します。

```
[no] ssh stricthostkeycheck
```

例 :

```
ciscoasa# ssh stricthostkeycheck
ciscoasa# copy x scp://cisco@10.86.95.9/x
The authenticity of host '10.86.95.9 (10.86.95.9)' can't be established.
RSA key fingerprint is dc:2e:b3:e4:e1:b7:21:eb:24:e9:37:81:cf:bb:c3:2a.
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes
Warning: Permanently added '10.86.95.9' (RSA) to the list of known hosts.
Source filename [x]?

Address or name of remote host [10.86.95.9]?

Destination username [cisco]?

Destination password []? cisco123

Destination filename [x]?
```

デフォルトで、このオプションは有効になっています。このオプションがイネーブルになっている場合、ASA にまだ格納されていないホストキーを許可または拒否するように求められま

す。このオプションがディセーブルになっている場合、ASAは過去に保存されたことがないホストキーを自動的に許可します。

### 例

外部ホストのクライアントから、SCP ファイル転送を実行します。たとえば、Linux では次のコマンドを入力します。

```
scp -v -pw password [path/]source_filename
username@asa_address:{disk0|disk1}:[path/]dest_filename
```

**-v** は冗長を表します。**-pw** が指定されていない場合は、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

次に、10.86.94.170 にあるサーバーのすでにハッシュされているホスト キーを追加する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ssh pubkey-chain
ciscoasa(config-ssh-pubkey-chain)# server 10.86.94.170
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server)# key-hash sha256 65:d9:9d:fe:1a:bc:61:aa:
64:9d:fc:ee:99:87:38:df:a8:8e:d9:e9:ff:42:de:e8:8d:2d:bf:a9:2b:85:2e:19
```

次に、10.7.8.9 にあるサーバーのホスト スtring キーを追加する例を示します。

```
ciscoasa(config)# ssh pubkey-chain
ciscoasa(config-ssh-pubkey-chain)# server 10.7.8.9
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server)# key-string
Enter the base 64 encoded RSA public key.
End with the word "exit" on a line by itself
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server-string)# c1:b1:30:29:d7:b8:de:6c:97:77:10:d7:
46:41:63:87
ciscoasa(config-ssh-pubkey-server-string)# exit
```

## ASA TFTP クライアントのパス設定

TFTP は、単純なクライアント/サーバー ファイル転送プロトコルで、RFC 783 および RFC 1350 Rev. 2 で規定されています。TFTP サーバーとの間でファイルをコピーできるように、ASA を TFTP クライアントとして設定できます。これにより、コンフィギュレーション ファイルをバックアップし、それらを複数の ASA にプロパゲートできます。

ここでは、TFTP サーバーへのパスを事前定義できるため、**copy** および **configure net** などのコマンドで入力する必要がなくなります。

### 手順

**configure net** および **copy** コマンドで使用するために、TFTP サーバーのアドレスおよびファイル名を事前定義します。



**tftp-server** *interface\_name server\_ip filename*

例 :

```
ciscoasa(config)# tftp-server inside 10.1.4.7 files/config1.cfg
ciscoasa(config)# copy tftp: test.cfg

Address or name of remote host [10.1.4.7]?

Source filename [files/config1.cfg]?config2.cfg

Destination filename [test.cfg]?

Accessing tftp://10.1.4.7/files/config2.cfg;int=outside...
```

コマンドを入力するとファイル名を上書きできます。たとえば、**copy** コマンドを使用するとき、事前定義された TFTP サーバーのアドレスを利用できますが、インタラクティブプロンプトでファイル名を入力することもできます。

**copy** コマンドに、**tftp://url** ではなく **tftp:** を入力して **tftp-server** の値を使用します。

## ASA へのファイルのコピー

この項では、アプリケーションイメージ、ASDM ソフトウェア、コンフィギュレーションファイル、または TFTP、FTP、SMB、HTTP、HTTPS、または SCP サーバーから内部または外部フラッシュメモリにダウンロードする必要があるその他のファイルをコピーする方法について説明します。

### 始める前に

- 文字の大文字と小文字が異なっても、同じ名前の2つのファイルをフラッシュメモリの同じディレクトリに保存できません。たとえば、**config.cfg** というファイルが存在する場所に **Config.cfg** というファイルをダウンロードしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
%Error opening disk0:/Config.cfg (File exists)
```

- Cisco SSL VPN Client** をインストールする方法の詳細については、『*Cisco AnyConnect VPN Client Administrator Guide*』を参照してください。ASA に **Cisco Secure Desktop** をインストールする方法の詳細については、『*Cisco Secure Desktop Configuration Guide for Cisco ASA 5500 Series Administrators* (*Cisco ASA 5500 シリーズ管理者向け Cisco Secure Desktop コンフィギュレーションガイド*)』を参照してください。
- 複数のイメージがインストールされている場合、または外部フラッシュメモリにイメージがインストールされている場合に特定のアプリケーションイメージまたは ASDM イメージを使用するように ASA を設定するには、[ASA イメージ](#)、[ASDM](#)、および [スタートアップ コンフィギュレーションの設定](#) (22 ページ) を参照してください。

- マルチ コンテキスト モードの場合は、システム実行スペース内にいる必要があります。
- (オプション) ASA がサーバーとの通信に使用するインターフェイスを指定します。インターフェイスを指定しない場合、ASA は管理専用のルーティング テーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティング テーブルをチェックします。

## 手順

次のサーバー タイプの 1 つを使用してファイルをコピーします。

- TFTP サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] tftp://server[/path]/src_filename
{disk0|disk1}:[/path/]dest_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy tftp://10.1.1.67/files/context1.cfg disk0:/context1.cfg
Address or name of remote host [10.1.1.67]?

Source filename [files/context1.cfg]?

Destination filename [context1.cfg]?
Cryptochecksum: db8ba196 9ad189a8 7f5f501f 1bec469b
!!!!!!!!!!!!!!
11143 bytes copied in 5.710 secs (2228 bytes/sec)
```

- FTP サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] ftp://[user[:password]@]server[/path]/src_filename
{disk0|disk1}:[/path/]dest_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy ftp://jcrichon:aeryn@10.1.1.67/files/context1.cfg
disk0:/contexts/context1.cfg
Address or name of remote host [10.1.1.67]?

Source username [jcrichon]?

Source password [aeryn]?

Source filename [files/context1.cfg]?

Destination filename [contexts/context1.cfg]?
Cryptochecksum: db8ba196 9ad189a8 7f5f501f 1bec469b
!!!!!!!!!!!!!!
11143 bytes copied in 5.710 secs (2228 bytes/sec)
```

- HTTP (S) サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] http[s]://[user[:password]@]server[:port][[/path]/src_filename
{disk0|disk1}:[/path/]dest_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy https://asun:john@10.1.1.67/files/moya.cfg disk0:/contexts/moya.cfg
Address or name of remote host [10.1.1.67]?
Source username [asun]?
Source password [john]?
Source filename [files/moya.cfg]?
Destination filename [contexts/moya.cfg]?
Cryptochecksum: db8ba196 9ad189a8 7f5f501f 1bec469b
!!!!!!!!!!!!!!
11143 bytes copied in 5.710 secs (2228 bytes/sec)
```

- SMB サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] smb://[user[:password]@]server[/path]/src_filename
{disk0|disk1}:[/path/]dest_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy /noconfirm smb://chiana:dargo@10.1.1.67/test.xml disk0:/test.xml
Cryptochecksum: db8ba196 9ad189a8 7f5f501f 1bec469b
!!!!!!!!!!!!!!
11143 bytes copied in 5.710 secs (2228 bytes/sec)
```

- SCP サーバーからコピーします。

**int=interface** オプションは、ルート ルックアップをバイパスして、常に指定されたインターフェイスを使用して SCP サーバーに到達します。

```
copy [/noconfirm] [interface_name]
scp://[user[:password]@]server[/path]/src_filename;int=interface_name
{disk0|disk1}:[/path/]dest_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy scp://pilot@10.86.94.170/test.cfg disk0:/test.cfg
Address or name of remote host [10.86.94.170]?
Source username [pilot]?
Destination filename [test.cfg]?
The authenticity of host '10.86.94.170 (10.86.94.170)' can't be established.
RSA key fingerprint is
<65:d9:9d:fe:1a:bc:61:aa:64:9d:fc:ee:99:87:38:df:a8:8e:d9:e9:ff:42:de:e8:8d:2d:bf:a9:2b:85:2e:19> (SHA256) .
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes
Please use the following commands to add the hash key to the configuration:
```

```
ssh pubkey-chain
  server 10.86.94.170
  key-hash sha256
65:d9:9d:fe:1a:bc:61:aa:64:9d:fc:ee:99:87:38:df:a8:8e:d9:e9:ff:42:de:e8:8d:2d:bf:a9:2b:85:2e:19

Password: <type in password>
!!!!!!
6006 bytes copied in 8.160 secs (750 bytes/sec)
```

## スタートアップコンフィギュレーションまたは実行コンフィギュレーションへのファイルのコピー

テキストファイルは、TFTP、FTP、SMB、HTTP (S)、または SCP サーバーから、またはフラッシュメモリから、実行コンフィギュレーションまたはスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードできます。

### 始める前に

コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーするには、2つのコンフィギュレーションをマージします。マージによって、新しいコンフィギュレーションから実行コンフィギュレーションに新しいコマンドが追加されます。コンフィギュレーションが同じ場合、変更は発生しません。コマンドが衝突する場合、またはコマンドがコンテキストの実行に影響を与える場合、マージの結果はコマンドによって異なります。エラーが発生することも、予期できない結果が生じることもあります。

(オプション) ASA がサーバーとの通信に使用するインターフェイスを指定します。インターフェイスを指定しない場合、ASA は管理専用のルーティングテーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティングテーブルをチェックします。

### 手順

スタートアップコンフィギュレーションまたは実行コンフィギュレーションにファイルをコピーするには、適切なダウンロードサーバーに対して次のコマンドのいずれかを入力します。

- TFTP サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] tftp://server[/path]/src_filename {startup-config |
running-config}
```

例 :

```
ciscoasa# copy tftp://10.1.1.67/files/old-running.cfg running-config
```

- FTP サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] ftp://[user[:password]@]server[/path]/src_filename  
{startup-config | running-config}
```

例 :

```
ciscoasa# copy ftp://jcrichton:aeryn@10.1.1.67/files/old-startup.cfg startup-config
```

- HTTP (S) サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] http[s]://[user[:password]@]server[:port][[/path]/src_filename  
{startup-config | running-config}
```

例 :

```
ciscoasa# copy https://asun:john@10.1.1.67/files/new-running.cfg running-config
```

- SMB サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] smb://[user[:password]@]server[/path]/src_filename  
{startup-config | running-config}
```

例 :

```
ciscoasa# copy /noconfirm smb://chiana:dargo@10.1.1.67/new-running.cfg running-config
```

- SCP サーバーからコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name]  
scp://[user[:password]@]server[/path]/src_filename[;int=interface_name] {startup-config |  
running-config}
```

例 :

```
ciscoasa# copy scp://pilot:moya@10.86.94.170/new-startup.cfg startup-config
```

**;int=interface** オプションは、ルート ルックアップをバイパスして、常に指定されたインターフェイスを使用して SCP サーバーに到達します。

---

## 例

たとえば、TFTPサーバーからコンフィギュレーションをコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa# copy tftp://209.165.200.226/configs/startup.cfg startup-config
```

FTP サーバーからコンフィギュレーションをコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa# copy ftp://admin:letmein@209.165.200.227/configs/startup.cfg startup-config
```

HTTP サーバーからコンフィギュレーションをコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa# copy http://209.165.200.228/configs/startup.cfg startup-config
```

## ASA イメージ、ASDM、およびスタートアップコンフィギュレーションの設定

複数の ASA または ASDM イメージがある場合は、ブートするイメージを指定する必要があります。イメージを設定しない場合はデフォルトのブートイメージが使用され、そのイメージは意図されたものではない可能性があります。スタートアップコンフィギュレーションでは、コンフィギュレーション ファイルを任意で指定できます。

次のモデルのガイドラインを参照してください。

- Firepower 4100/9300 シャーシ : ASA のアップグレードは FXOS によって管理されます。ASA オペレーティングシステム内で ASA をアップグレードすることはできないため、ASA イメージに対してこの手順を使用しないでください。ASA と FXOS は個別にアップグレードでき、FXOS ディレクトリリストに別々に表示されます。ASA パッケージには必ず ASDM が含まれています。
- プラットフォーム モードの Firepower 2100 : ASA、ASDM、および FXOS のイメージは 1 つのパッケージと一緒にバンドルされています。パッケージの更新は FXOS によって管理されます。ASA オペレーティングシステム内で ASA をアップグレードすることはできないため、ASA イメージに対してこの手順を使用しないでください。ASA と FXOS は個別にアップグレードできません。常に一緒にバンドルされています。
- Firepower 1000、アプライアンスモードの 2100 : ASA、ASDM、および FXOS のイメージは 1 つのパッケージと一緒にバンドルされています。パッケージの更新は、次の手順を使用して ASA によって管理されます。これらのプラットフォームでは、ブートするイメージを識別するために ASA が使用されますが、基盤となるメカニズムはレガシー ASA とは異なります。詳細については、以下のコマンドの説明を参照してください。
- モデルの ASDM : ASDM は ASA オペレーティングシステム内からアップグレードできるため、バンドルされた ASDM イメージのみを使用する必要はありません。プラットフォームモードの Firepower 2100 では Firepower 4100/9300、手動でアップロードする ASDM イメージは FXOS イメージリストに表示されません。ASA から ASDM イメージを管理する必要があります。



(注) ASA バンドルをアップグレードすると、同じ名前 (**asdm.bin**) であるため、バンドル内の ASDM イメージが ASA 上の前の ASDM バンドルイメージに置き換わります。ただし、アップロードした別の ASDM イメージ (たとえば **asdm-782.bin**) を手動で選択すると、バンドルアップグレード後も引き続き同じイメージが使用されます。互換性のある ASDM バージョンを実行していることを確認するには、バンドルをアップグレードする前に ASDM をアップグレードするか、または ASA バンドルをアップグレードする直前に、バンドルされた ASDM イメージ (**asdm.bin**) を使用するよう ASA を再設定する必要があります。

- **ASAv** : 初期導入時の **ASAv** パッケージでは、ASA イメージが読み取り専用 **boot:/パーティション** に配置されます。ASAv をアップグレードする際は、フラッシュメモリ内の別のイメージを指定します。後でコンフィギュレーションをクリアすると (**clear configure all**)、ASAv は元の展開のイメージをロードするようになることに注意してください。初期導入時の **ASAv** パッケージには、フラッシュメモリに配置される ASDM イメージも含まれています。ASDM イメージを個別にアップグレードできます。

次のデフォルト設定を参照してください。

- **ASA イメージ** :
  - **Firepower 1000**、**アプライアンスモードの 2100** : 以前実行していたブートイメージをブートします。
  - **その他の物理 ASA** : 内部フラッシュメモリ内で見つかった最初のアプリケーションイメージをブートします。
  - **ASAv** : 最初に展開したときに作成された、読み取り専用の **boot:/パーティション** にあるイメージをブートします。
  - **Firepower 4100/9300 シャーシ** : どの ASA イメージをブートするかは **FXOS** システムによって決定されます。この手順を使用して ASA イメージを設定することはできません。
  - **プラットフォームモードの Firepower 2100** : どの ASA/**FXOS** パッケージをブートするかは **FXOS** システムによって決定されます。この手順を使用して ASA イメージを設定することはできません。
- **すべての ASA 上の ASDM イメージ** : 内部フラッシュメモリ内で見つかった (この場所にイメージがない場合は外部フラッシュメモリ内で見つかった) 最初の ASDM イメージをブートします。
- **スタートアップコンフィギュレーション** : デフォルトで、ASA は、隠しファイルであるスタートアップコンフィギュレーションからブートします。

## 手順

ステップ1 ASA ブートイメージの場所を設定します。

**boot system url**

例：

```
ciscoasa(config)# boot system disk0:/images/asa921.bin
```

URL は次のようになります。

- **{disk0:/ | disk1:/}[path/]filename**
- **tftp://[user[:password]@]server[:port]/[path/]filename**

TFTP オプションは、すべてのモデルでサポートされるわけではありません。

**Firepower 1000、アプライアンスモードの 2100**：1 つの **boot system** コマンドのみ入力できます。新しいイメージにアップグレードする場合は、**no boot system** を入力して、以前に設定したイメージを削除する必要があります。設定に **boot system** コマンドが存在しない場合があることに注意してください。たとえば、ROMMON からイメージをインストールした場合、新しいデバイスがある場合、またはコマンドを手動で削除した場合などです。**boot system** コマンドは、入力時にアクションを実行します。システムはイメージを検証して解凍し、ブート場所（FXOS によって管理される **disk0** の内部ロケーション）にコピーします。ASA をリロードすると、新しいイメージがロードされます。リロードの前に気が変わった場合は、**no boot system** コマンドを入力してブート場所から新しいイメージを削除し、現在のイメージを引き続き実行することができます。このコマンドを入力した後、ASA フラッシュメモリから元のイメージファイルを削除することもできます。すると、ASA はブート場所から正しく起動します。ただし、**boot system** コマンドはフラッシュメモリ内のイメージでのみ動作するため、フラッシュメモリで使用するイメージを保持することをお勧めします。他のモデルとは異なり、スタートアップコンフィギュレーション内のこのコマンドは、ブートイメージに影響しません（本質的に表面的なものです）。リロード時には、最後にロードされたブートイメージが常に実行されます。このコマンドを入力した後で設定を保存しない場合、リロードすると、新しいイメージが起動された場合でも、古いコマンドが設定に出現します。設定を保存することにより、設定の同期を維持する必要があります。Cisco ダウンロードサイトからロードできるのは、元のファイル名のイメージのみです。ファイル名を変更した場合はロードされません。また、FTD イメージをロードして FTD に再イメージ化できます。この場合は、すぐにリロードするように求められます。

**他のモデル**：最大 4 つの **boot system** コマンドエントリを入力して、ブートする複数のイメージを順番に指定することができます。ASA は、最初に検出に成功したイメージをブートします。**boot system** コマンドを入力すると、エントリがリストの最後に追加されます。ブートエントリの順序を変更するには、**clear configure boot system** コマンドを使用してすべてのエントリを削除してから、エントリを目的の順序で再入力する必要があります。設定できる **boot system tftp** コマンドは 1 つだけです。これは、最初に設定する必要があります。



(注) ASA が連続ブートのサイクルから抜け出せない場合は、ASA を ROMMON モードにリポートします。ROMMON モードの詳細については、[デバッグメッセージの表示](#)を参照してください。

例 :

```
firepower-2110(config)# boot system disk0:/cisco-asa-fp2k.9.13.2.SPA
The system is currently installed with security software package 9.13.1, which has:
- The platform version: 2.7.1
- The CSP (asa) version: 9.13.1
Preparing new image for install...
!!!!!!!!!!!!!!
Image download complete (Successful unpack the image).
Installation of version 9.13.2 will do the following:
- upgrade to the new platform version 2.7.2
- upgrade to the CSP ASA version 9.13.2
After the installation is complete, reload to apply the new image.
Finalizing image install process...

Install_status: ready.....
Install_status: validating-images.....
Install_status: update-software-pack-completed
firepower-2110(config)#
```

**ステップ 2** ブートする ASDM イメージを設定します。

**asdm image** {**disk0:/** | **disk1:/**}[*path/*]*filename*

例 :

```
ciscoasa(config)# asdm image disk0:/images/asdm721.bin
```

ブートするイメージを指定しない場合、インストールされているイメージが 1 つしかなくても、ASA によって **asdm image** コマンドが実行コンフィギュレーションに挿入されます。[自動更新 (Auto Update)] (設定されている場合) の問題を避けるため、また起動時ごとのイメージ検索を回避するため、ブートする ASDM イメージをスタートアップコンフィギュレーションで指定する必要があります。

**ステップ 3** (オプション) スタートアップコンフィギュレーションをデフォルトの隠しファイルではなく既知のファイルになるように設定します。

**boot config** {**disk0:/** | **disk1:/**}[*path/*]*filename*

例 :

```
ciscoasa(config)# boot config disk0:/configs/startup1.cfg
```

# コンフィギュレーションまたはその他のファイルのバックアップと復元

システム障害に備えて、コンフィギュレーションファイルなどのシステムファイルを定期的にバックアップすることを推奨します。

## 完全なシステムバックアップまたは復元の実行

次の手順では、コンフィギュレーションおよびイメージの zip バックアップ tar.gz ファイルへのバックアップおよび復元方法と、そのファイルのローカルコンピュータへの転送方法について説明します。

### バックアップまたは復元を開始する前に

- バックアップまたは復元を開始する前に、バックアップまたは復元場所に使用可能なディスク領域が少なくとも 300 MB ある必要があります。
- バックアップ中またはバックアップ後にコンフィギュレーションを変更した場合、その変更内容はバックアップに含まれません。バックアップの実行後にコンフィギュレーションを変更してから復元を実行した場合、このコンフィギュレーションの変更は上書きされます。結果として、ASA は異なる挙動をすることもあります。
- 一度に開始できるバックアップまたは復元は 1 つだけです。
- コンフィギュレーションは、元のバックアップを実行したときと同じ ASA バージョンにのみ復元できます。復元ツールを使用して、ASA の異なるバージョン間でコンフィギュレーションを移行することはできません。コンフィギュレーションの移行が必要な場合、ASA は、新しい ASA OS をロードした時に常駐するスタートアップコンフィギュレーションを自動的にアップグレードします。
- クラスタリングを使用する場合、バックアップまたは復元できるのは、スタートアップコンフィギュレーション、実行コンフィギュレーション、およびアイデンティティ証明書のみです。ユニットごとに別々にバックアップを作成および復元する必要があります。
- フェールオーバーを使用する場合、バックアップの作成および復元は、アクティブユニットとスタンバイユニットに対して別々に行う必要があります。
- ASA にマスターパスフレーズを設定している場合は、この手順で作成したバックアップコンフィギュレーションの復元時にそのマスターパスフレーズが必要となります。ASA のマスターパスフレーズが不明な場合は、[マスターパスフレーズの設定](#)を参照して、バックアップを続行する前に、マスターパスフレーズをリセットする方法を確認してください。
- PKCS12 データをインポート (`crypto ca trustpoint` コマンドを使用) する際にトラストポイントが RSA キーを使用している場合、インポートされたキーペアにはトラストポイントと同じ名前が割り当てられます。この制約のため、ASDM コンフィギュレーションを復

元した後でトラストポイントおよびそのキー ペアに別の名前を指定した場合、スタートアップコンフィギュレーションは元のコンフィギュレーションと同じになるのに、実行コンフィギュレーションには異なるキー ペア名が含まれることとなります。つまり、キー ペアとトラストポイントに別の名前を使用した場合は、元のコンフィギュレーションを復元できないということです。この問題を回避するため、トラストポイントとそのキー ペアには必ず同じ名前を使用してください。

- CLIを使用してバックアップしてから ASDM を使用して復元したり、その逆を行うことはできません。
- 各バックアップ ファイルに含まれる内容は次のとおりです。
  - 実行コンフィギュレーション
  - スタートアップ コンフィギュレーション
  - すべてのセキュリティ イメージ
    - Cisco Secure Desktop およびホスト スキャンのイメージ
    - Cisco Secure Desktop およびホスト スキャンの設定
    - AnyConnect (SVC) クライアントのイメージおよびプロファイル
    - AnyConnect (SVC) のカスタマイズおよびトランスフォーム
  - アイデンティティ証明書 (アイデンティティ証明書に関連付けられた RSA キー ペアは含まれるが、スタンドアロン キーは除外される)
  - VPN 事前共有キー
  - SSL VPN コンフィギュレーション
  - アプリケーション プロファイルのカスタム フレームワーク (APCF)
  - ブックマーク
  - カスタマイゼーション
  - ダイナミック アクセス ポリシー (DAP)
  - プラグイン
  - 接続プロファイル用の事前入力スクリプト
  - プロキシ自動設定
  - 変換テーブル
  - Web コンテンツ
  - バージョン情報

## システムのバックアップ

この手順では、完全なシステム バックアップを実行する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** システムをバックアップします。

**backup** [/noconfirm] [ context *ctx-name*] [ interface *name*] [ passphrase *value*] [ location *path*]

例 :

```
ciscoasa# backup location disk0:/sample-backup]
Backup location [disk0:/sample-backup]?
```

**interface name** を指定しない場合、ASA は管理専用のルーティング テーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティング テーブルをチェックします。

システム実行スペースからのマルチ コンテキスト モードで、**context** キーワードを入力して、指定したコンテキストをバックアップします。各コンテキストは個別にバックアップする必要があります。つまり、ファイルごとに **backup** コマンドを再入力する必要があります。

VPN 証明書および事前共有キーのバックアップ中、証明書を符号化するために、**passphrase** キーワードで指定された秘密キーが必要です。PKCS12 形式の証明書を符号化および復号化するために使用するパスフレーズを入力する必要があります。バックアップに含まれるのは証明書に関連する RSA キー ペアだけであり、スタンドアロン証明書は除外されます。

バックアップの **location** にはローカル ディスクまたはリモート URL を指定できます。location を指定しない場合は、次のデフォルト名が使用されます。

- シングル モード : `disk0:hostname.backup.timestamp.tar.gz`
- マルチ モード : `disk0:hostname.context-ctx-name.backup.timestamp.tar.gz`

**ステップ 2** プロンプトに従います。

例 :

```
ciscoasa# backup location disk0:/sample-backup
Backup location [disk0:/sample-backup]?

Begin backup...
Backing up [ASA version] ... Done!
Backing up [Running Config] ... Done!
Backing up [Startup Config] ... Done!

Enter a passphrase to encrypt identity certificates. The default is cisco.
You will be required to enter the same passphrase while doing a restore: cisco
Backing up [Identity Certificates] ... Done!

IMPORTANT: This device uses master passphrase encryption. If this backup file
is used to restore to a device with a different master passphrase,
you will need to provide the current master passphrase during restore.
Backing up [VPN Pre-shared keys] ... Done!
```

```

Backing up [SSL VPN Configurations: Application Profile Custom Framework] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Bookmarks]... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Customization] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Dynamic Access Policy] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Plug-in] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Pre-fill scripts for Connection Profile] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Proxy auto-config] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Translation table] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Web Content] ... Done!
Backing up [Anyconnect(SVC) client images and profiles] ... Done!
Backing up [Anyconnect(SVC) customizations and transforms] ... Done!
Backing up [Cisco Secure Desktop and Host Scan images] ... Done!
Backing up [UC-IME tickets] ... Done!
Compressing the backup directory ... Done!
Copying Backup ... Done!
Cleaning up ... Done!
Backup finished!

```

## バックアップの復元

zip tar.gz ファイルからローカル PC に復元するコンフィギュレーションやイメージを指定します。

### 手順

**ステップ 1** バックアップ ファイルからシステムを復元します。

```
restore [/noconfirm] [context ctx-name] [passphrase value] [location path]
```

例 :

```
ciscoasa# restore location disk0:/5525-2051.backup.2014-07-09-223$
restore location [disk0:/5525-2051.backup.2014-07-09-223251.tar.gz]?
```

**context** キーワードを使用して複数のコンテキストを復元する場合、バックアップされた各コンテキスト ファイルは個別に復元する必要があります。つまり、**restore** コマンドをファイルごとに再入力する必要があります。

**ステップ 2** プロンプトに従います。

例 :

```
ciscoasa# restore location disk0:/5525-2051.backup.2014-07-09-223$
restore location [disk0:/5525-2051.backup.2014-07-09-223251.tar.gz]?
```

```
Copying Backup file to local disk... Done!
Extracting the backup file ... Done!
Warning: The ASA version of the device is not the same as the backup version,
some configurations might not work after restore!
Do you want to continue? [confirm] y
Begin restore ...
IMPORTANT: This backup configuration uses master passphrase encryption.
Master passphrase is required to restore running configuration,
startup configuration and VPN pre-shared keys.
```

```

Backing up [VPN Pre-shared keys] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Application Profile Custom Framework] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Bookmarks]... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Customization] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Dynamic Access Policy] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Plug-in] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Pre-fill scripts for Connection Profile] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Proxy auto-config] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Translation table] ... Done!
Backing up [SSL VPN Configurations: Web Content] ... Done!
Backing up [Anyconnect(SVC) client images and profiles] ... Done!
Backing up [Anyconnect(SVC) customizations and transforms] ... Done!
Backing up [Cisco Secure Desktop and Host Scan images] ... Done!
Backing up [UC-IME tickets] ... Done!
Restoring [Running Configuration]
Following messages are as a result of applying the backup running-configuration to
this device, please note them for future reference.

ERROR: Interface description was set by failover and cannot be changed
ERROR: Unable to set this url, it has already been set
Remove the first instance before adding this one
INFO: No change to the stateful interface
Failed to update LU link information
.Range already exists.
WARNING: Advanced settings and commands should only be altered or used
under Cisco supervision.
ERROR: Failed to apply media termination address 198.0.1.228 to interface outside,
the IP is already used as media-termination address on interface outside.
ERROR: Failed to apply media termination address 198.0.0.223 to interface inside,
the IP is already used as media-termination address on interface inside.
WARNING: PAC settings will override http- and https-proxy configurations.
Do not overwrite configuration file if you want to preserve the old http-
and https-proxy configurations.

Cryptochecksum (changed): 98d23c2c ccb31dc3 e51acf88 19f04e28
Done!
Restoring UC-IME ticket ... Done!
Enter the passphrase used while backup to encrypt identity certificates.
The default is cisco. If the passphrase is not correct, certificates will not be restored.

No passphrase was provided for identity certificates.
Using the default value: cisco. If the passphrase is not correct,
certificates will not be restored.
Restoring Certificates ...
Enter the PKCS12 data in base64 representation....
ERROR: A keypair named Main already exists.
INFO: Import PKCS12 operation completed successfully
. Done!
Cleaning up ... Done!
Restore finished!

```

## 自動バックアップおよび復元の設定 (ISA 3000)

ISA 3000 では、**write memory** を使用して設定を保存するたびに、特定の場所への自動バックアップを設定できます。

自動復元では、完全な設定を SD フラッシュメモリカードにロードして、新しいデバイスを簡単に設定できます。工場出荷時のデフォルト設定では、自動復元が有効になっています。

## 自動バックアップの設定 (ISA 3000)

ISA 3000 では、**write memory** を使用して設定を保存するたびに、特定の場所への自動バックアップを設定できます。

### 始める前に

この機能は、ISA 3000 のみで使用できます。

### 手順

**ステップ 1** パッケージのバックアップ パラメータを設定します。

**backup-package backup [interface name] location {diskn: | url} [passphrase string]**

- **interface name** : オフデバイスストレージを指定した場合に、バックアップ URL に到達するためのインターフェイスを指定します。interface name を指定しない場合、ASA は管理専用のルーティングテーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティングテーブルをチェックします。
- **location {diskn: | url}** : データのバックアップに使用するストレージメディアを指定します。URL またはローカルストレージを指定できます。disk0 は内部フラッシュドライブです。disk1 は USB 1 のオプションの USB メモリスティックです。disk2 は USB 2 のオプションの USB メモリスティックです。disk3 は SD メモリカードです。自動復元のデフォルト設定では disk3 が使用されます。
- **passphrase string** : バックアップデータを保護するためのパスフレーズを設定します。自動復元のデフォルト設定では、パスフレーズとして「cisco」が使用されます。

これらの設定は、手動の **backup** コマンドでもデフォルトで使用されます。[システムのバックアップ \(28 ページ\)](#) を参照してください。自動バックアップまたは復元を有効にしている場合に手動の **backup** コマンドを使用すると、指定した名前のバックアップファイルと、自動バックアップおよび復元で使用される「auto-backup-asa.tgz」という名前のファイルが保存されます。

例 :

```
ciscoasa(config)# backup-package backup location disk3: passphrase cisco
```

**ステップ 2** バックアップおよび復元の自動モードを有効にします。

**backup-package backup auto**

**write memory** を使用して設定を保存すると、設定は自動的にバックアップ場所とスタートアップ コンフィギュレーションに保存されます。バックアップファイルの名前は「auto-backup-asa.tgz」です。自動バックアップを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

例 :

```
ciscoasa(config)# backup-package backup auto
```

## 自動復元の設定 (ISA 3000)

自動復元モードは、ユーザの操作なしでデバイスのシステム設定を復元します。たとえば、保存したバックアップ設定を含む SD メモリカードを新しいデバイスに挿入し、デバイスの電源をオンにします。デバイスが起動すると、システム設定を復元する必要があるかどうかを判断するために SD カードがチェックされます。（復元は、バックアップファイルに別のデバイスの「フィンガープリント」がある場合にのみ開始されます。バックアップファイルのフィンガープリントは、バックアップまたは復元操作中に現在のデバイスに一致するように更新されます。そのため、デバイスがすでに復元を完了している場合、またはデバイスが独自のバックアップを作成している場合は、自動復元はスキップされます。）フィンガープリントに復元が必要であることが示されている場合、デバイスはシステム設定を置き換えます（`startup-config`、`running-config`、SSL VPN 設定など。バックアップの内容の詳細については、[システムのバックアップ \(28 ページ\)](#) を参照してください）。デバイスの起動が完了すると、保存された設定が実行されます。

工場出荷時のデフォルト設定では自動復元が有効になっているため、デバイスの事前設定を実行しなくても、SD メモリカードにロードされた完全な設定で新しいデバイスを簡単に設定できます。

デバイスは、システム設定を復元する必要があるかどうかをブートプロセスの早い段階で決定する必要があるため、ROMMON 変数をチェックして、デバイスが自動復元モードかどうかを判断し、バックアップ設定の場所を取得します。次の ROMMON 変数が使用されます。

- **RESTORE\_MODE** = {`auto` | `manual`}  
デフォルトは `auto` です。
- **RESTORE\_LOCATION** = {`disk0:` | `disk1:` | `disk2:` | `disk3:`}  
デフォルトは `disk3:` です。
- **RESTORE\_PASSPHRASE** = `key`  
デフォルトは `cisco` です。

自動復元設定を変更するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

- この機能は、ISA 3000 のみで使用できます。
- デフォルトの復元設定を使用する場合は、SD メモリカード（部品番号 SD-IE-1GB=）を取り付ける必要があります。
- 自動復元を有効にするためにデフォルト設定を復元する必要がある場合は、**configure factory default** コマンドを使用します。このコマンドは、トランスペアレント ファイア



ウォールモードでのみ使用できます。そのため、ルーテッドファイアウォールモードの場合は、最初に **firewall transparent** コマンドを使用します。

## 手順

**ステップ 1** パッケージの復元のパラメータを設定します。

**backup-package restore location {diskn: | url} [passphrase string]**

- **location diskn:** データの復元に使用するストレージメディアを指定します。disk0 は内部フラッシュドライブです。disk1 は USB 1 のオプションの USB メモリスティックです。disk2 は USB 2 のオプションの USB メモリスティックです。disk3 は SD メモリカードです。デフォルトは disk3 です。
- **passphrase string:** バックアップデータを読み取るパスフレーズを設定します。デフォルトは「cisco」です。

これらの設定は、手動の **restore** コマンドでもデフォルトで使用されます。 [システムのバックアップ \(28 ページ\)](#) を参照してください。

例:

```
ciscoasa(config)# backup-package restore location disk1: passphrase $upe3rnatural
```

**ステップ 2** 復元の自動モードを有効または無効にします。

**[no] backup-package restore auto**

復元されるファイルの名前は「auto-backup-asa.tgz」です。

例:

```
ciscoasa(config)# no backup-package restore auto
```

## シングルモードコンフィギュレーションまたはマルチモードシステムコンフィギュレーションのバックアップ

シングルコンテキストモードで、またはマルチモードのシステムコンフィギュレーションから、スタートアップコンフィギュレーションまたは実行コンフィギュレーションを外部サーバーまたはローカルフラッシュメモリにコピーできます。

## 始める前に

(オプション) ASA がサーバーとの通信に使用するインターフェイスを指定します。インターフェイスを指定しない場合、ASA は管理専用のルーティングテーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティングテーブルをチェックします。

## 手順

次のサーバータイプの1つを使用してコンフィギュレーションをバックアップします。

- TFTP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {startup-config | running-config}
tftp://server[/path]/dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy running-config tftp://10.1.1.67/files/new-running.cfg
```

- FTP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {startup-config | running-config}
ftp://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy startup-config ftp://jcrichon:aeryn@10.1.1.67/files/new-startup.cfg
```

- SMB サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {startup-config | running-config}
smb://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy /noconfirm running-config smb://chiana:dargo@10.1.1.67/new-running.cfg
```

- SCP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {startup-config | running-config}
scp://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename[;int=interface_name]
```

例：

```
ciscoasa# copy startup-config
scp://pilot:moya@10.86.94.170/new-startup.cfg
```

**;int=interface** オプションは、ルートバックアップをバイパスして、常に指定されたインターフェイスを使用して SCP サーバーに到達します。

- ローカルフラッシュメモリにコピーします。

```
copy [/noconfirm] {startup-config | running-config} {disk0|disk1}:[/path/]dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy /noconfirm running-config disk0:/new-running.cfg
```

宛先ディレクトリが存在することを確認してください。存在しない場合は、まず **mkdir** コマンドを使用してディレクトリを作成します。

---

## フラッシュメモリ内のコンテキストコンフィギュレーションまたはその他のファイルのバックアップ

システム実行スペースで次のいずれかのコマンドを入力することによって、ローカルフラッシュメモリにあるコンテキストコンフィギュレーションまたは他のファイルをコピーします。

### 始める前に

(オプション) ASA がサーバーとの通信に使用するインターフェイスを指定します。インターフェイスを指定しない場合、ASA は管理専用のルーティングテーブルをチェックします。ここで一致が見つからない場合はデータのルーティングテーブルをチェックします。

### 手順

---

次のサーバータイプの1つを使用してコンテキストコンフィギュレーションバックアップをバックアップします。

- フラッシュから TFTP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {disk0|disk1}:[/path/]src_filename  
tftp://server[/path]/dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy disk0:/asa-os.bin tftp://10.1.1.67/files/asa-os.bin
```

- フラッシュから FTP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {disk0|disk1}:[/path/]src_filename  
ftp://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename
```

例：

```
ciscoasa# copy disk0:/asa-os.bin ftp://jcrichon:aeryn@10.1.1.67/files/asa-os.bin
```

- フラッシュから SMB サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {disk0|disk1}:[path]/src_filename
smb://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy /noconfirm copy disk0:/asdm.bin
smb://chiana:dargo@10.1.1.67/asdm.bin
```

- フラッシュから SCP サーバーにコピーします。

```
copy [/noconfirm] [interface_name] {disk0|disk1}:[path]/src_filename
scp://[user[:password]@]server[/path]/dst_filename[;int=interface_name]
```

例 :

```
ciscoasa# copy disk0:/context1.cfg
scp://pilot:moya@10.86.94.170/context1.cfg
```

**;int=interface** オプションは、ルートバックアップをバイパスして、常に指定されたインターフェイスを使用して SCP サーバーに到達します。

- フラッシュからローカルフラッシュメモリにコピーします。

```
copy [/noconfirm] {disk0|disk1}:[path]/src_filename {disk0|disk1}:[path]/dst_filename
```

例 :

```
ciscoasa# copy /noconfirm disk1:/file1.cfg disk0:/file1.cfgnew-running.cfg
```

宛先ディレクトリが存在することを確認してください。存在しない場合は、まず **mkdir** コマンドを使用してディレクトリを作成します。

---

## コンテキスト内でのコンテキストコンフィギュレーションのバックアップ

マルチコンテキストモードでは、コンテキスト内から次のバックアップを実行できます。

### 手順

- ステップ 1** (admin コンテキストに接続された) スタートアップコンフィギュレーションサーバーに実行コンフィギュレーションをコピーします。

```
ciscoasa/contexta# copy running-config startup-config
```

- ステップ2** コンテキスト ネットワークに接続された TFTP サーバーに実行コンフィギュレーションをコピーします。

```
ciscoasa/contexta# copy running-config tftp:/server[/path]/filename
```

---

## 端末ディスプレイからのコンフィギュレーションのコピー

### 手順

- ステップ1** コンフィギュレーションを端末に表示します。

```
more system:running-config
```

- ステップ2** コマンドから出力をコピーして、コンフィギュレーションをテキスト ファイルに貼り付けます。

---

## export および import コマンドを使用した追加ファイルのバックアップ

コンフィギュレーションに欠かせない追加ファイルは次のとおりです。

- **import webvpn** コマンドを使用してインポートするファイル。現在これらのファイルには、カスタマイゼーション、URL リスト、Web コンテンツ、プラグイン、および言語翻訳などがあります。
- DAP ポリシー (dap.xml)。
- CSD コンフィギュレーション (data.xml)。
- デジタル キーおよびデジタル証明書。
- ローカル CA ユーザー データベース ファイルと証明書ステータス ファイル。

CLI では、**export** コマンドと **import** コマンドを使用して、コンフィギュレーションの個々の要素をバックアップおよび復元できます。

これらのファイル（たとえば、**import webvpn** コマンドを使用してインポートしたこれらのファイルや証明書など）をバックアップするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ1** 次のように、適用可能な **show** コマンドを実行します。

```
ciscoasa # show import webvpn plug-in
```

```
ica
rdp
ssh, telnet
vnc
```

**ステップ 2** バックアップするファイルに対して **export** コマンドを発行します（この例では rdp ファイルです）。

```
ciscoasa # export webvpn plug-in protocol rdp tftp://tftpserver/backupfilename
```

## スクリプトを使用したファイルのバックアップおよび復元

スクリプトを使用して、ASA のコンフィギュレーション ファイルをバックアップおよび復元できます。これには、**import webvpn** CLI によってインポートする拡張機能のすべて、CSD コンフィギュレーションの XML ファイル、および DAP コンフィギュレーションの XML ファイルが含まれます。セキュリティ上の理由により、デジタルキーと証明書、またはローカル CA キーの自動バックアップを実行することはお勧めしません。

この項では、自動バックアップの手順について説明します。また、そのまま使用することも、環境要件に合わせて修正することもできるサンプル スクリプトを示します。サンプル スクリプトは Linux システムに固有のスクリプトです。Microsoft Windows システムで使用するには、サンプルのロジックを使用して修正する必要があります。



(注) 代わりに、**backup** コマンドと **restore** コマンドを使用することもできます。詳細については、[完全なシステムバックアップまたは復元の実行 \(26 ページ\)](#) を参照してください。

## バックアップおよび復元スクリプトを使用する前に

スクリプトを使用して ASA コンフィギュレーションをバックアップおよび復元するには、まず次の作業を実行します。

- Expect モジュールとともに Perl をインストールする。
- ASA に到達可能な SSH クライアントをインストールする。
- TFTP サーバーをインストールして、ASA からバックアップサイトにファイルを送信する。

別の選択肢としては、市販のツールを使用します。このスクリプトのロジックをそれらのツールに取り入れることができます。

## スクリプトを実行する

バックアップおよび復元のスクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** システムの任意の場所に、スクリプトファイルをダウンロードまたはカットアンドペーストします。
- ステップ 2** コマンドラインで、**Perlscriptname** と入力します。*scriptname* はスクリプトファイルの名前です。
- ステップ 3** Enter を押します。
- ステップ 4** オプションごとに値を入力するように、プロンプトが表示されます。あるいは、**Perlscriptname** コマンドを入力するときにオプションの値を入力してから、**Enter** を押すこともできます。どちらの方法でも、スクリプトによりオプションごとに値を入力するよう求められます。
- ステップ 5** このスクリプトが実行され、発行されるコマンドが出力されます。この出力はCLIの記録となります。これらのCLIは後で行われる復元に使用できます。特に、ファイルを1つまたは2つだけ復元する場合に便利です。

## サンプルスクリプト

```
#!/usr/bin/perl
#Description: The objective of this script is to show how to back up
configurations/extensions.
# It currently backs up the running configuration, all extensions imported via "import
webvpn" command, the CSD configuration XML file, and the DAP configuration XML file.
#Requirements: Perl with Expect, SSH to the ASA, and a TFTP server.
#Usage: backupasa -option option_value
# -h: ASA hostname or IP address
# -u: User name to log in via SSH
# -w: Password to log in via SSH
# -e: The Enable password on the security appliance
# -p: Global configuration mode prompt
# -s: Host name or IP address of the TFTP server to store the configurations
# -r: Restore with an argument that specifies the file name. This file is produced
during backup.
#If you don't enter an option, the script will prompt for it prior to backup.
#
#Make sure that you can SSH to the ASA.

use Expect;
use Getopt::Std;

#global variables
%options=();
$restore = 0; #does backup by default
$restore_file = '';
$sasa = '';
$storage = '';
$user = '';
$password = '';
$enable = '';
$prompt = '';
$date = `date +%F`;
chop($date);
my $exp = new Expect();

getopts("h:u:p:w:e:s:r:", \%options);
```

```

do process_options();

do login($exp);
do enable($exp);
if ($restore) {
    do restore($exp,$restore_file);
}
else {
    $restore_file = "$prompt-restore-$date.cli";
    open(OUT,">$restore_file") or die "Can't open $restore_file\n";
    do running_config($exp);
    do lang_trans($exp);
    do customization($exp);
    do plugin($exp);
    do url_list($exp);
    do webcontent($exp);
    do dap($exp);
    do csd($exp);
    close(OUT);
}
do finish($exp);

sub enable {
    $obj = shift;
    $obj->send("enable\n");
    unless ($obj->expect(15, 'Password:')) {
        print "timed out waiting for Password:\n";
    }
    $obj->send("$enable\n");
    unless ($obj->expect(15, "$prompt#")) {
        print "timed out waiting for $prompt#\n";
    }
}

sub lang_trans {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("show import webvpn translation-table\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
    $output = $obj->before();
    @items = split(/\n+/, $output);

    for (@items) {
        s/^\s+//;
        s/\s+$//;
        next if /show import/ or /Translation Tables/;
        next unless (/^\.+s+.$/);
        ($lang, $transtable) = split(/\s+/, $_);
        $cli = "export webvpn translation-table $transtable language $lang
$storage/$prompt-$date-$transtable-$lang.po";
        $ocli = $cli;
        $ocli =~ s/^export/import/;
        print "$cli\n";
        print OUT "$ocli\n";
        $obj->send("$cli\n");
        $obj->expect(15, "$prompt#" );
    }
}

sub running_config {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $cli = "copy /noconfirm running-config $storage/$prompt-$date.cfg";
    print "$cli\n";
}

```



```
$obj->send("$cli\n");
$obj->expect(15, "$prompt#" );
}

sub customization {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("show import webvpn customization\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
    $output = $obj->before();
    @items = split(/\n+/, $output);

    for (@items) {
        chop;
        next if /^Template/ or /show import/ or /\s*$/;
        $cli = "export webvpn customization $_ $storage/$prompt-$date-cust-$_.xml";
        $ocli = $cli;
        $ocli =~ s/^export/import/;
        print "$cli\n";
        print OUT "$ocli\n";
        $obj->send("$cli\n");
        $obj->expect(15, "$prompt#" );
    }
}

sub plugin {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("show import webvpn plug-in\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
    $output = $obj->before();
    @items = split(/\n+/, $output);

    for (@items) {
        chop;
        next if /^Template/ or /show import/ or /\s*$/;
        $cli = "export webvpn plug-in protocol $_ $storage/$prompt-$date-plugin-$_.jar";
        $ocli = $cli;
        $ocli =~ s/^export/import/;
        print "$cli\n";
        print OUT "$ocli\n";
        $obj->send("$cli\n");
        $obj->expect(15, "$prompt#" );
    }
}

sub url_list {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("show import webvpn url-list\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
    $output = $obj->before();
    @items = split(/\n+/, $output);

    for (@items) {
        chop;
        next if /^Template/ or /show import/ or /\s*$/ or /No bookmarks/;
        $cli="export webvpn url-list $_ $storage/$prompt-$date-urllist-$_.xml";
        $ocli = $cli;
        $ocli =~ s/^export/import/;
        print "$cli\n";
        print OUT "$ocli\n";
        $obj->send("$cli\n");
    }
}
```

```

        $obj->expect(15, "$prompt#" );
    }
}

sub dap {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("dir dap.xml\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );

    $output = $obj->before();
    return 0 if($output =~ /Error/);

    $cli="copy /noconfirm dap.xml $storage/$prompt-$date-dap.xml";
    $ocli="copy /noconfirm $storage/$prompt-$date-dap.xml disk0:/dap.xml";
    print "$cli\n";
    print OUT "$ocli\n";
    $obj->send("$cli\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
}

sub csd {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("dir sdesktop\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );

    $output = $obj->before();
    return 0 if($output =~ /Error/);

    $cli="copy /noconfirm sdesktop/data.xml $storage/$prompt-$date-data.xml";
    $ocli="copy /noconfirm $storage/$prompt-$date-data.xml disk0:/sdesktop/data.xml";
    print "$cli\n";
    print OUT "$ocli\n";
    $obj->send("$cli\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
}

sub webcontent {
    $obj = shift;
    $obj->clear_accum();
    $obj->send("show import webvpn webcontent\n");
    $obj->expect(15, "$prompt#" );
    $output = $obj->before();
    @items = split(/\n+/, $output);

    for (@items) {
        s/^\s+//;
        s/\s+$//;
        next if /show import/ or /No custom/;
        next unless (/^.\s+.$/);
        ($url, $type) = split(/\s+/, $_);
        $turl = $url;
        $turl =~ s/\/\+//;
        $turl =~ s/\/+\/-//;
        $cli = "export webvpn webcontent $url $storage/$prompt-$date-$turl";
        $ocli = $cli;
        $ocli =~ s/^export/import/;
        print "$cli\n";
        print OUT "$ocli\n";
        $obj->send("$cli\n");
        $obj->expect(15, "$prompt#" );
    }
}

```

```
sub login {
    $obj = shift;
    $obj->raw_pty(1);
    $obj->log_stdout(0); #turn off console logging.
    $obj->spawn("/usr/bin/ssh $user@$asa") or die "can't spawn ssh\n";
    unless ($obj->expect(15, "password:" )) {
        die "timeout waiting for password:\n";
    }

    $obj->send("$password\n");

    unless ($obj->expect(15, "$prompt>" )) {
        die "timeout waiting for $prompt>\n";
    }
}

sub finish {
    $obj = shift;
    $obj->hard_close();
    print "\n\n";
}

sub restore {
    $obj = shift;
    my $file = shift;
    my $output;
    open(IN,$file) or die "can't open $file\n";
    while (<IN>) {
        $obj->send("$_");
        $obj->expect(15, "$prompt#" );
        $output = $obj->before();
        print "$output\n";
    }
    close(IN);
}

sub process_options {
    if (defined($options{s})) {
        $tstr= $options{s};
        $storage = "tftp://$tstr";
    }
    else {
        print "Enter TFTP host name or IP address:";
        chop($tstr=<>);
        $storage = "tftp://$tstr";
    }
    if (defined($options{h})) {
        $asa = $options{h};
    }
    else {
        print "Enter ASA host name or IP address:";
        chop($asa=<>);
    }

    if (defined ($options{u})) {
        $user= $options{u};
    }
    else {
        print "Enter user name:";
        chop($user=<>);
    }
}
```

```

if (defined ($options{w})) {
    $password= $options{w};
}
else {
    print "Enter password:";
    chop($password=<>);
}
if (defined ($options{p})) {
    $prompt= $options{p};
}
else {
    print "Enter ASA prompt:";
    chop($prompt=<>);
}
if (defined ($options{e})) {
    $enable = $options{e};
}
else {
    print "Enter enable password:";
    chop($enable=<>);
}

if (defined ($options{r})) {
    $restore = 1;
    $restore_file = $options{r};
}
}

```

## Auto Update の設定

Auto Update は、Auto Update サーバーがコンフィギュレーションおよびソフトウェアイメージを多数の ASA にダウンロードすることを許可し、中央からの ASA の基本的なモニタリングを提供するプロトコル仕様です。

## Auto Update について

この項では、Auto Update の実装方法と Auto Update が必要になる理由について説明します。

### Auto Update クライアントまたはサーバー

ASA は、クライアントまたはサーバーとして設定できます。Auto Update クライアントとして動作する場合は、ソフトウェアイメージおよびコンフィギュレーションファイルへのアップデートのため、Auto Update サーバーを定期的にポーリングします。Auto Update サーバーとして動作する場合は、Auto Update クライアントとして設定された ASA のアップデートを発行します。

### Auto Update の利点

Auto Update は、次のように、管理者が ASA の管理で直面するさまざまな問題を解決できる便利な機能です。

- ダイナミック アドレッシングおよび NAT に関する問題点の解決。

- コンフィギュレーションの変更を1つのアクションでコミット。
- ソフトウェア更新用の信頼度の高い方式の提供。
- ハイ アベイラビリティ用の十分実績のある方式の活用（フェールオーバー）。
- オープン インターフェイスによる柔軟性の提供。
- サービス プロバイダー環境のセキュリティ ソリューションの簡素化。

Auto Update 仕様は、中央、または複数の場所から、リモート管理アプリケーションにより ASA のコンフィギュレーションやソフトウェアイメージをダウンロードしたり、基本的な監視機能を実行したりする場合に必要なインフラストラクチャです。

Auto Update 仕様に従うと、Auto Update サーバーから ASA にコンフィギュレーション情報をプッシュしたり、要求を送信して情報を取得したりすることも、ASA から Auto Update サーバーに定期的にポーリングすることによって、最新のコンフィギュレーション情報を引き出す（プルする）こともできます。また、Auto Update サーバーはいつでも ASA にコマンドを送信し、ただちにポーリング要求を送信させることもできます。Auto Update サーバーと ASA の通信では、通信パスとローカル CLI コンフィギュレーションをすべての ASA に設定する必要があります。

## フェールオーバー設定での Auto Update サーバー サポート

Auto Update サーバを使用して、ソフトウェア イメージとコンフィギュレーション ファイルを、アクティブ/スタンバイ フェールオーバー コンフィギュレーションの ASA に配置できます。アクティブ/スタンバイフェールオーバーコンフィギュレーションで Auto Update をイネーブルにするには、フェールオーバー ペアのプライマリ装置に Auto Update サーバーのコンフィギュレーションを入力します。

フェールオーバー コンフィギュレーションの Auto Update サーバー サポートには、次の制限と動作が適用されます。

- アクティブ/スタンバイ コンフィギュレーションがサポートされるのは、シングル モードだけです。
- 新しいプラットフォーム ソフトウェア イメージをロードする際、フェールオーバー ペアはトラフィックの転送を停止します。
- LAN ベースのフェールオーバーを使用する場合、新しいコンフィギュレーションによってフェールオーバーリンクのコンフィギュレーションが変更されてはいけません。フェールオーバーリンクのコンフィギュレーションが変更されると、装置間の通信は失敗します。
- Auto Update サーバへの Call Home を実行するのはプライマリ装置だけです。Call Home を実行するには、プライマリ装置がアクティブ状態である必要があります。そうでない場合、ASA は自動的にプライマリ装置にフェールオーバーします。
- ソフトウェアイメージまたはコンフィギュレーションファイルをダウンロードするのは、プライマリ装置だけです。その後、ソフトウェアイメージまたはコンフィギュレーションファイルはセカンダリ装置にコピーされます。

- インターフェイス MAC アドレスとハードウェアのシリアル番号は、プライマリ装置のものであります。
- Auto Update サーバーまたは HTTP サーバーに保存されたコンフィギュレーション ファイルは、プライマリ装置専用です。

## Auto Update プロセスの概要

次に、フェールオーバー コンフィギュレーションでの Auto Update プロセスの概要を示します。このプロセスは、フェールオーバーがイネーブルであり、動作していることを前提としています。装置がコンフィギュレーションを同期化している場合、SSM カードの不具合以外の理由でスタンバイ装置に障害が発生している場合、または、フェールオーバー リンクがダウンしている場合、Auto Update プロセスは実行できません。

1. 両方の装置は、プラットフォームおよび ASDM ソフトウェア チェックサムとバージョン情報を交換します。
2. プライマリ装置は Auto Update サーバーにアクセスします。プライマリ装置がアクティブ状態でない場合、ASA はプライマリ装置にフェールオーバーした後、Auto Update サーバーにアクセスします。
3. Auto Update サーバーは、ソフトウェア チェックサムと URL 情報を返します。
4. プライマリ装置が、アクティブまたはスタンバイ装置のプラットフォーム イメージ ファイルをアップデートする必要があると判断した場合は、次の処理が実行されます。
  1. プライマリ装置は、Auto Update サーバーの URL を使用して、HTTP サーバーから適切なファイルを取得します。
  2. プライマリ装置は、そのイメージをスタンバイ装置にコピーしてから、自身のイメージをアップデートします。
  3. 両方の装置に新しいイメージがある場合は、セカンダリ（スタンバイ）装置が最初にリロードされます。
    - セカンダリ装置のブート時にヒットレスアップグレードが可能な場合は、セカンダリ装置がアクティブ装置になり、プライマリ装置がリロードされます。リロードが終了すると、プライマリ装置がアクティブ装置になります。
    - スタンバイ装置のブート時にヒットレスアップグレードができない場合は、両方の装置が同時にリロードされます。
  4. セカンダリ（スタンバイ）装置だけに新しいイメージがある場合は、セカンダリ装置だけがリロードされます。プライマリ装置は、セカンダリ装置のリロードが終了するまで待機します。
  5. プライマリ（アクティブ）装置だけに新しいイメージがある場合は、セカンダリ装置がアクティブ装置になり、プライマリ装置がリロードされます。
  6. もう一度アップデート プロセスが手順 1 から開始されます。

5. ASA が、プライマリまたはセカンダリ装置の ASDM ファイルをアップデートする必要があると判断した場合は、次の処理が実行されます。
  1. プライマリ装置は、Auto Update サーバーから提供された URL を使用して、HTTP サーバーから ASDM イメージファイルを取得します。
  2. プライマリ装置は、必要に応じてそのイメージをスタンバイ装置にコピーします。
  3. プライマリ装置は、自身の ASDM イメージをアップデートします。
  4. もう一度アップデートプロセスが手順 1 から開始されます。
6. プライマリ装置が、コンフィギュレーションファイルをアップデートする必要があると判断した場合は、次の処理が実行されます。
  1. プライマリ装置は、指定された URL を使用して、からコンフィギュレーションファイルを取得します。
  2. 両方の装置で同時に、古いコンフィギュレーションが新しいコンフィギュレーションに置換されます。
  3. もう一度アップデートプロセスが手順 1 から開始されます。
7. チェックサムがすべてのイメージおよびコンフィギュレーションファイルと一致している場合、アップデートは必要ありません。このプロセスは、次のポーリング時間まで中断されます。

## Auto Update のガイドライン

### コンテキスト モード

Auto Update は、シングル コンテキスト モードでのみサポートされます。

### クラスタ

クラスタリングはサポートされません。

### モデル

次のモデルではサポートされません。

- ASA 5506-X、5508-X、5516-X
- Firepower 1000、2100、4100、および 9300
- ASAv

### その他のガイドライン

- Auto Update サーバーと通信するためのプロトコルとして HTTPS が選択されている場合は、ASA は SSL を使用します。これは、ASA による DES または 3DES ライセンスの保有が必須です。

## Auto Update サーバーとの通信の設定

### 手順

**ステップ 1** Auto Update サーバーの URL を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
auto-update server url [source interface] [verify-certificate | no-verification]
```

ここで、*url* には次の構文があります。

```
http[s]://[user:password@]server_ip[:port]/pathname
```

**source interface** キーワードおよび引数は、Auto Update サーバーに要求を送信するときに使用するインターフェイスを指定します。**management-access** コマンドで指定したインターフェイスと同じインターフェイスを指定すると、Auto Update 要求は管理アクセスに使用されるのと同じ IPsec VPN トンネルを通過します。

HTTPS の場合、**verify-certificate** キーワード（デフォルト）は、Auto Update サーバーが返す証明書を検証します。検証をディセーブルにするには（推奨されません）、**no-verification** キーワードを指定します。

**ステップ 2** （任意）Auto Update サーバーと通信する際に送信するデバイス ID を識別するには、次のコマンドを入力します。

```
auto-update device-id {hardware-serial | hostname | ipaddress [if-name] | mac-address [if-name] | string text}
```

使用する ID は、次のいずれかのパラメータによって決まります。

- **hardware-serial** 引数は、ASA のシリアル番号を指定します。
- **hostname** 引数は、ASA のホスト名を指定します。
- **ipaddress** キーワードは、指定したインターフェイスの IP アドレスを指定します。インターフェイス名を指定しない場合、Auto Update サーバーとの通信に使用するインターフェイスの IP アドレスが使用されます。
- **mac-address** キーワードは、指定のインターフェイスの MAC アドレスを指定します。インターフェイス名を指定しない場合、Auto Update サーバーとの通信に使用するインターフェイスの MAC アドレスが使用されます。
- **string** キーワードは、指定のテキスト識別子を指定します。空白や、`'`、`“`、`>`、`&`、`?` は使用できません。



**ステップ3** (任意) コンフィギュレーション、またはイメージのアップデートを要求するために Auto Update サーバーにポーリングする回数を指定するには、次のコマンドを入力します。

**auto-update poll-period** *poll-period* [*retry-count* [*retry-period*]]

*poll-period* 引数は、更新を確認する間隔 (分単位) を指定します。デフォルトは 720 分 (12 時間) です。

*retry-count* 引数は、サーバーへの最初の接続に失敗した場合に、再試行する回数を指定します。デフォルトは 0 です。

*retry-period* 引数は、リトライの間の待機時間 (分単位) を指定します。デフォルトは 5 分です。

**ステップ4** (オプション) ASA から Auto Update サーバにポーリングする特定の時刻をスケジュールするには、次のコマンドを入力します。

**auto-update poll-at** *days-of-the-week time* [ **randomize** *minutes*] [*retry\_count* [*retry\_period*]]

*days-of-the-week* 引数は、Monday、Tuesday、Wednesday、Thursday、Friday、Saturday、および Sunday 中の任意の曜日または曜日の組み合わせです。それ以外に、**daily** (月曜日から日曜日)、**weekdays** (月曜日から金曜日)、および **weekend** (土曜日と日曜日) の値が設定可能です。

*time* 引数は、ポーリングの開始時刻を HH:MM 形式で指定します。たとえば、午前 8 時は 8:00、午後 8 時は 20:00 とします。

**randomize minutes** キーワードおよび引数は、指定した開始時刻に続いてポーリングをランダムに実行する期間を指定します。範囲は 1 ~ 1439 分です。

*retry\_count* 引数は、最初の接続に失敗したときに、Auto Update サーバーへの再接続を試みる回数を指定します。デフォルトは 0 です。

*retry\_period* 引数は、接続の試行から次の試行までの待機時間を指定します。デフォルトは 5 分です。範囲は 1 ~ 35791 分です。

**ステップ5** (オプション) Auto Update サーバーに一定期間アクセスがなかった場合にトラフィックの通過を中断するには、次のコマンドを入力します。

**auto-update timeout** *period*

*period* 引数は、1 ~ 35791 の範囲で分単位のタイムアウト期間を指定します。デフォルトはタイムアウトなし (0分) です。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**auto-update timeout** コマンドを使用して、最新のイメージと設定が ASA に存在することを確認します。この状態は、システム ログ メッセージ 201008 で報告されます。

## 例

次の例では、ASA が外部インターフェイスから証明書の検証付きで、IP アドレス 209.165.200.224、ポート番号 1742 で Auto Update サーバーをポーリングするように設定されています。

また、ASA は、デバイス ID としてホスト名を使用し、Auto Update サーバーへのポーリングを毎週金曜日と土曜日の 10:00 p.m から 11:00 p.m. の間の任意の時刻に実行するように設定されます。次の例のように、ポーリングに失敗した場合は、ASA によって Auto Update サーバーへの再接続が 10 回試みられます。再接続と再接続の間は、3 分間の待機時間が設定されます。

```
ciscoasa(config)# auto-update server
https://jcrichon:farscape@209.165.200.224:1742/management source outside
verify-certificate
ciscoasa (config)# auto-update device-id hostname
hostname (config)# auto-update poll-at Friday Saturday 22:00 randomize 60 2 10
```

## Auto Update サーバーとしてのクライアントアップデートの設定

**client-update** コマンドを入力すると、Auto Update クライアントとして設定された ASA のアップデートがイネーブルになり、ソフトウェア コンポーネントのタイプ (ASDM またはブートイメージ)、ASA のタイプまたはファミリー、アップデートが適用されるリビジョン番号、アップデートを取得した URL または IP アドレスを指定できるようになります。

ASA を Auto Update サーバーとして設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** クライアントアップデートをイネーブルにするには、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa(config)# client-update enable
```

**ステップ 2** ASA に適用する **client-update** コマンドに、次のパラメータを設定します。

**client-update** {component {asdm | image} | device-id dev\_string | family family\_name | type type} urlurl-string rev-nums rev-nums}

**component** {asdm | image} パラメータでは、ASDM または ASA のブートイメージのいずれかをソフトウェア コンポーネントとして指定します。

**device-id** dev\_string パラメータでは、Auto Update クライアントが自身を識別するために使用する固有の文字列を指定します。最大で 63 文字です。

**family** family\_name パラメータでは、Auto Update クライアントが自身を識別するために使用するファミリー名を指定します。asa、pix、または 7 文字以内のテキスト文字列を指定します。

**rev-nums** rev-nums パラメータでは、このクライアントのソフトウェアまたはファームウェアイメージを指定します。最大 4 個のイメージを、任意の順序でカンマで区切って指定します。

**type** type パラメータでは、クライアントアップデートを通知するクライアントのタイプを指定します。このコマンドは、Windows クライアントのアップデートでも使用されるため、クライアントのリストには Windows オペレーティング システムも複数含まれています。

**url url-string** パラメータでは、ソフトウェアまたはファームウェアイメージの URL を指定します。この URL は、クライアントに適合するファイルを指している必要があります。すべての Auto Update クライアントでは、URL のプレフィックスとしてプロトコル「http://」または「https://」を使用する必要があります。

特定のタイプの ASA すべてに適用するクライアントアップデートのパラメータを設定します。つまり、ASA のタイプ、および更新されたイメージの取得元となる URL または IP アドレスを指定します。また、リビジョン番号も指定する必要があります。リモートの ASA のリビジョン番号が、指定したリビジョン番号の1つと一致する場合は、クライアントのアップデートは不要です。アップデートは無視されます。

ASA 5525-X にクライアントアップデートを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa(config)# client-update type asa5525 component asdm url
http://192.168.1.114/aus/asdm710.bin rev-nums 9.10(1)
```

## Auto Update のモニタリング

### Auto Update プロセスのモニタリング

**debug auto-update client** または **debug fover cmd-exe** コマンドを使用して、Auto Update プロセスで実行される処理を表示できます。次に、**debug auto-update client** コマンドの出力例を示します。

```
Auto-update client: Sent DeviceDetails to /cgi-bin/dda.pl of server 192.168.0.21
Auto-update client: Processing UpdateInfo from server 192.168.0.21
  Component: asdm, URL: http://192.168.0.21/asdm.bint, checksum:
0x94bced0261cc992ae710faf8d244cf32
  Component: config, URL: http://192.168.0.21/config-rms.xml, checksum:
0x67358553572688a805a155af312f6898
  Component: image, URL: http://192.168.0.21/cdisk73.bin, checksum:
0x6d091b43ce96243e29a62f2330139419
Auto-update client: need to update img, act: yes, stby yes
name
ciscoasa(config)# Auto-update client: update img on stby unit...
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 1, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 1001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 1501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 2001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 2501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 3001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 3501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 4001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 4501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 5001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 5501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 6001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 6501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 7001, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 7501, len = 1024
auto-update: Fover copyfile, seq = 4 type = 1, pseq = 8001, len = 1024
```



## ソフトウェアとコンフィギュレーションの履歴

機能名	プラットフォームリリース	機能情報
セキュアコピークライアントおよびサーバ	9.1(5)/9.2(1)	<p>SCP サーバとの間でファイルを転送するため、ASA は Secure Copy (SCP) クライアントおよびサーバをサポートするようになりました。</p> <p><b>ssh pubkey-chain</b>、<b>server (ssh pubkey-chain)</b>、<b>key-string</b>、<b>key-hash</b>、<b>ssh stricthostkeycheck</b> の各コマンドが導入されました。</p> <p><b>copy scp</b> コマンドが変更されました。</p>
設定可能な SSH 暗号機能と整合性アルゴリズム	9.1(7)94(3)95(3)96(1)	<p>ユーザーは SSH 暗号化を管理するときに暗号化モードを選択し、さまざまなキー交換アルゴリズムに対して HMAC と暗号化を設定できます。アプリケーションに応じて、暗号の強度を強くしたり弱くする必要がある場合があります。セキュアなコピーのパフォーマンスは暗号化アルゴリズムに一部依存します。デフォルトで、ASA は 3des-cbc aes128-cbc aes192-cbc aes256-cbc aes128-ctr aes192-ctr aes256-ctr の順にアルゴリズムをネゴシエートします。提示された最初のアルゴリズム (3des-cbc) が選択された場合、aes128-cbc などの一層効率的なアルゴリズムが選択された場合よりも大幅にパフォーマンスが低下します。たとえば、提示された暗号方式に変更するには、<b>ssh cipher encryption custom aes128-cbc</b> を使用します。</p> <p>次のコマンドが導入されました。<b>ssh cipher encryption</b>、<b>ssh cipher integrity</b></p>

機能名	プラットフォームリリース	機能情報
デフォルトでイネーブルになっている Auto Update サーバ証明書を検証	9.2(1)	<p>Auto Update サーバ証明書の検証がデフォルトでイネーブルになりました。新しいコンフィギュレーションでは証明書の検証を明示的にディセーブルにする必要があります。証明書の確認をイネーブルにしていなかった場合に、以前のリリースからアップグレードしようとする、証明書の確認はイネーブルではなく、次の警告が表示されます。</p> <pre>WARNING: The certificate provided by the auto-update servers will not be verified. In order to verify this certificate please use the verify-certificate option.</pre> <p>設定を移行する場合は、次のように確認なしを明示的に設定します。</p> <p><b>auto-update server no-verification</b></p> <p><b>auto-update server {verify-certificate   no-verification}</b> コマンドが変更されました。</p>
CLIを使用したシステムのバックアップと復元	9.3(2)	<p>CLIを使用してイメージや証明書を含む完全なシステムコンフィギュレーションをバックアップおよび復元できるようになりました。</p> <p><b>backup</b> および <b>restore</b> の各コマンドが導入されました。</p>
新しい ASA 5506W-X イメージの回復およびロード	9.4(1)	<p>新しい ASA 5506W-X イメージのリカバリおよびロードがサポートされています。</p> <p><b>hw-module module wlan recover image</b> コマンドが導入されました。</p>
ISA 3000 の自動バックアップと復元	9.7(1)	<p>バックアップ コマンドと復元コマンドのプリセットパラメータを使用して、自動バックアップ機能や自動復元機能を有効にできます。これらの機能は、外部メディアからの初期設定、デバイス交換、作動可能状態へのロールバックなどで使用されます。</p> <p>次のコマンドが導入されました。 <b>backup-package location</b>、<b>backup-package auto</b>、<b>show backup-package status</b>、<b>show backup-package summary</b></p>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。